

霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト 仮称 (長野県霧ヶ峰地域)

霧ヶ峰自然環境保全協議会、諏訪市、茅野市、下諏訪町

平成20年度 地方の元気再生事業
提案概要(様式4 詳細版)

<平成20年度の提案者は、霧ヶ峰自然環境保全協議会と諏訪市>

霧ヶ峰の現状と課題(提案の背景)

貴重な地域資源としての自然の変容
草原の森林化
湿原の乾燥化
生物種減少のおそれ など

観光地としての不振
観光客数の減少(平成14年以降一貫して減少傾向にある)
夏期への観光客集中(夏期の自然への負荷、トイレ等の不足)
宿泊客割合の低さ(滞在客、滞在日数の少なさ)

今 やらなければならないことがある
100年後に霧ヶ峰を残すために

目指すべき地方再生の全体

地方の元気再生事業

実施スケジュール

取組のねらい・実施主体間の連携等

(ねらい) 自然再生と地域経済(観光)再生を一体で行うことによる地域再生
全国的にも貴重な自然・文化遺産である霧ヶ峰を保全再生し、“彩り草原”としての空間形成を行うことを通じて魅力を向上させるとともに、それを活かすソフトとしてのエコツーリズムモデルの構築を行う。
地方の元気再生事業では、そのプロジェクトの本格展開に先立つ調査、実験、試行等を行う。
(実施主体間の連携)
地方の元気再生事業の成果を基に地域住民・団体、地権者、行政機関等で構成される霧ヶ峰自然環境保全協議会がプロジェクトの本格展開の具体案を検討し、多様な主体の参画を得て実施に移していく。

平成19年11月	「霧ヶ峰自然環境保全協議会」(通称「霧ヶ峰みらい協議会」)発足
平成20年8月	実施取組 ピーク対策実験調査着手 <~11月> (ピーナスライン通行量・利用客動態調査、公衆トイレ整備方法等検討調査)
〃	「霧ヶ峰自然環境保全協議会」作業部会 <~12月> 実施取組 専門化招聘
〃	実施取組 「草原」「湿原」「樹叢」保全実験調査着手(雑木・草活用可能性調査、湿原環境検討調査、植物種分布調査、外来種対応実験調査) <~12月>
平成20年9月	実施取組 オフピーク対策試行調査着手(インタープリター発掘型エコツアー) <~H21年2月>
平成21年3月	『霧ヶ峰の今とみらい』(霧ヶ峰保全再生計画の骨格)策定 平成20年度取組の評価、検証、報告書作成
平成21年 夏 ~ 平成22年3月	平成21年度における実施分 実施取組 「草原」「湿原」「樹叢」保全実験調査 (雑木・草の資源活用パイロット事業実験) 実施取組 ピーク対策実験調査(ピーナスライン通行量・利用客動態調査、公衆トイレ整備方法等検討調査、シャトルバス(ラウンドバス)運行実験) 実施取組 オフピーク対策試行調査 (エコツアー試行、インタープリター養成講座、エコツーリズム講座) 実施取組 『霧ヶ峰の今とみらい』(PR版)の印刷・配布及び効果調査
平成22年~ (100年後のために)	「霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト」の本格展開

主な取組 3つの取組+共通事項

取組 「草原」「湿原」「樹叢」保全実験調査

- 取組内容
- * 資源としての雑木・草の活用可能性調査 [H20年度]
 - * 湿原環境検討調査[H20年度]
 - * 植物種分布調査[H20年度]
 - * 外来種対応に関する実験調査[H20年度]
 - * 雑木・草の資源活用パイロット事業実験 [H21年度]

見込まれる効果
新しい経済価値の発見と科学的データ、知見に基づき「草原」「湿原」「樹叢」の保全再生ができる。

取組 「ピーク対策実験調査」

- 取組内容
- * ピーナスライン通行量・利用客動態調査[H20年度、21年度]
 - * 公衆トイレ整備方法検討のための実験調査[H20年度、21年度]
 - * シャトルバス(ラウンドバス)運行実験調査[H21年度]
- 見込まれる効果
ピーク負荷を軽減させるシステムと必要な施設整備を行うための基礎データ収集、ニーズ把握、実験が行える。

取組 「オフピーク対策試行調査」

- 取組内容
- * インタープリター発掘型エコツアーの試行 [H20年度、21年度]
 - * インタープリター養成講座の開催 [H21年度]
 - * エコツーリズム講座の開催 [H21年度]
- 見込まれる効果
インタープリターの養成とオフピーク時の利用客の増・滞在客増のための取組の基礎づくり

(取組 共通)

- 取組内容
- * 霧ヶ峰自然環境保全協議会の作業部会への専門家の招聘[H20年度]
 - * 『霧ヶ峰の今とみらい』(PR版)の印刷[H21年度]
- (諏訪地域小中学校等に配布、エコツアーの教材(ツール)としても活用)
- 見込まれる効果
本格的プロジェクト展開のための協議会の検討が効果的に行えとともに、検討結果を広く地域住民やエコツアー参加者と共有できる。

H21年度以降の展開

「地方の元気再生事業」を活用したパイロット的取組の実験・試行等(H21年度)
霧ヶ峰自然環境保全協議会の構成団体や多様な主体の参画による本格的プロジェクト展開(H22年度~)

「霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト」

【3つの柱】

「草原」「湿原」「樹叢」の保全再生プロジェクト

~ 多様な主体の参画により生物多様性を保全し、100年後の人たちに手渡す ~

“彩り草原空間”形成プロジェクト

~ 霧ヶ峰を 日本で最も保護と利用の調和の取れた場所とするためのシステム及びハード整備 ~

霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築プロジェクト

~ 霧ヶ峰ならではのエコツーリズムモデルを構築する 霧ヶ峰の自然・文化と交歓することにより “彩り草原空間”を満喫し、生物多様性の意味や人と自然の関わりを実感・体験・参加するツアー ~

霧ヶ峰再生の目標像

100年後の人々に世界に誇り得る自然・文化遺産としての霧ヶ峰が手渡されている。
その前提として、
・「草原」「湿原」「樹叢」と森林との調和がとれ、また文化遺産と融合した霧ヶ峰(約3,000ha)全域についての保全再生計画が、「霧ヶ峰自然環境保全協議会」で策定されている。
・霧ヶ峰保全再生計画に基づき、地域住民、団体、地権者、企業、ボランティア、NPO、行政等多様な主体が、霧ヶ峰の保全再生のために活動している。
霧ヶ峰保全活動への参加者数 平成19年度実績 1,300人、平成25年度目標(2倍) 2,600人、平成30年度目標(3倍) 3,900人
・霧ヶ峰の遊歩道、案内板、トイレ等の施設が整備され、霧ヶ峰を訪れる人が“彩り草原空間”を満喫、生物多様性の意味や人と自然の関わりについて実感するエコツアープログラムを年間を通じて提供、それにより、霧ヶ峰が日本で最も保護と利用の調和のとれた自然公園スポットになっている。
利用が年間を通じて平準化されることにより、自然への負荷を低減させながら、年間利用客数が、平成25年度以降、平成14~19年の平均(500万人)を上回っている。
また、エコツアー等の滞在客を増加させることにより、宿泊客割合(宿泊客数/総利用客数)が平成30年度において20%を超えている。(平成19年実績9.3%)
夏期ピーク時におけるピーナスラインの渋滞が解消されている。